

人文学報

No. 512-2

社会人類学分野 9

伊藤眞教授退職記念

伊藤眞教授の人と業績…………… 小 田 亮 (1)

ビトゥンの日本人墓地から

— 沖縄、南洋、ミナハサ — …………… 伊 藤 眞 (17)

グシイの離婚訴訟

— 1997 年ならびに 1998 年の事例を中心に — …………… 石 田 慎一郎 (37)

西北回教聯合会の活動と回民社会の権力構造

— 『回教月刊 (西北鐘声)』を手掛かりとして — …………… 澤 井 充 生 (59)

「血湖」研究に関する覚書 …………… 楊 德 睿・川 瀬 由 高 (訳) (101)

異国で信仰が問われるとき

— 再帰的近代化、あるいはイスラームのオブジェクト化に纏わる一試論 — …… 荒 木 亮 (123)

首都大学東京人文科学研究科

2016.3

2007 年 7 月 1 日制定
 2013 年 4 月 10 日改定
 2015 年 4 月 21 日改定

首都大学東京『人文学報（社会人類学分野）』投稿規定

- (1) 本誌には、論文のほか、年度ごとの卒論・修論・博論一覧表を載せるものとする。また本誌編集会議の合議により、上記以外の特集や記録なども載せることができる。
- (2) 本誌には、社会人類学研究室教員等（専任教員、非常勤講師、客員教授、客員研究員等）が、論文を日本語または英語で執筆することができる。
- (3) 本誌には、首都大学東京大学院社会人類学分野在籍者（博士前期課程・博士後期課程）、および本研究室に籍を置く日本学術振興会特別研究員（SPD、RPD、PD）が、論文を日本語または英語で投稿することができる。
- (3)-1 上記有資格者が投稿しようとする論文は、指導教員および社会人類学研究室教員の最低 2 名による査読・評価を経て推薦を得ねばならない。
- (3)-2 上記在籍者の投稿論文の採否は、社会人類学研究室専任教員が構成する本誌編集会議の議を経て決定する。
- (4) 投稿論文は未刊行のものに限る。
- (5) 本誌投稿規定および執筆要領の改廃は社会人類学教室会議の合議により行う。

2007 年 7 月 1 日制定
 2013 年 4 月 10 日改定
 2013 年 11 月 21 日改定

首都大学東京『人文学報（社会人類学分野）』執筆要領

- (1) 投稿論文は、400 字詰め原稿用紙に換算して 50 枚（2 万字）を、英文の場合は 8,000 ワードを限度とする。写真・図表も字数に含めるものとする。
- (2) 書式は日本文化人類学会機関誌『文化人類学』の規定に準ずるものとする。
- (3) 原稿の募集は原則として毎年 4 月・5 月とする。原稿提出期限は原則として毎年 10 月末日とするが、原稿募集の際、年度ごとに通知する。
- (4) 投稿者は、電子ファイル（MS Word）で作成した原稿をメールに添付し、所定の提出期限までに提出すること。なお、査読後の最終原稿に関しては、電子ファイルおよび紙媒体を提出すること。

2015年度社会人類学研究室 卒業論文・修士論文・博士論文一覧

卒業論文（首都大学東京人文・社会系社会学コース社会人類学分野）

氏名	論文タイトル	指導教員
国広伽奈子	妹萌えの力 ——オタク文化において消費されるイメージ——	石田
近藤 里香	ケアされる高齢者をめぐる個別的な他者化と一般的他者 ——メディアの表象を手掛かりに——	石田
篠原 綾子	「声を見る、手話を聞く」とはどういうことか ——聴者とろう者の音を巡る全身の経験から考える——	石田
高梨 諒	災害と記憶の継承 ——震災遺構の保存を巡る議論の合意形成へ向けて——	石田
野元綾希子	演劇の魔法の正体を探る ——理論と現場からみえる演劇の力とその影響——	石田
西山 祥子	高齢者による集会的「自己治療」 ——健康をめざした物語の共有からみえるもの——	石田
保坂 呀里	ふるさと納税与が贈与になるための気づき ——広島県神石高原町と島根県浜田市の事例から——	石田
三浦 玄也	景観の変遷と地域住民 ——新潟県越後妻有地域を事例に——	石田
岡本 薫	異類愛における女性の主体的異化 ——トワイライトの分析から——	綾部
小澤 英賢	精神論と合理化論の相克 ——日本の高校野球における指導者像の変容——	綾部
陳 静賢	現実と記憶の狭間に生きる ——新世代香港アイデンティティについて——	綾部
馬場あきほ	住居空間から見た現代日本社会 ——キッチンに集約される「場」と母親の役割——	綾部
毛利 愛菜	日本人の境界と在留外国人貧困問題	綾部
山浦 唯	「観光文化」と「旅人者」の可能性 ——コーディネーターによる文脈接近——	綾部
山本はるな	現代日本における「おばさん」の意義 ——「お節介」に対する期待感の高まり——	綾部
興津 信代	現代日本における若い女性の化粧行動と美意識 ——社会的・経済的制限のなかで——	伊藤
宮下 純弥	食のまちづくりの可能性 ——「食」による内発的發展に向けて——	伊藤
小野 萌木	富士山麓住民の「富士山観」 ——世界遺産登録後における文化資源としての消費——	何
檜崎 万葉	「しずけさ」という観光資源は地域を活性化させるのか ——秩父多摩甲斐国立公園の中津峡におけるサウンドツーリズムの可能性——	田沼

修士論文（首都大学東京大学院人文科学研究科社会行動学専攻社会人類学分野）

氏名	論文タイトル	主査
浅井 彩	「あるべき理想の生」を生きる ——日本のイスコン信者の多層性と 周辺の信者に関する人類学的研究——	綾部
斎藤 俊介	ランナー主義 ——北部タイ平地社会におけるエスニシティの 再領土化をめぐる——	綾部
郭 若冰	食のジェンダー化に影響する食の思想の変動とその要因に関する一考察 ——和菓子を事例に——	何

博士論文（首都大学東京大学院人文科学研究科社会行動学専攻社会人類学分野）

氏名	論文タイトル	主査
池田 昭光	流れと顔 ——レバノンにおける民族誌的研究——	伊藤
小林 宏至	客家社会における土楼建築と親族組織をめぐる社会人類学的研究	何

2015年度社会人類学分野教員業績一覧
(2015年4月～2016年3月)

伊藤 眞 (教授)

単 編 著	
論 文	<p>2015 「帰国移民」、『現代家族ベディア』、比較家族史学会編、弘文堂。p. 177。</p> <p>2015 「退職者の海外移住」、『現代家族ベディア』、比較家族史学会編、弘文堂。pp. 178-179。</p> <p>2016 「ビトゥンの日本人墓地から——沖縄、南洋、ミナハサ」、『人文学報』512-2号：17-35。</p> <p>2016 (印刷中) 伊藤眞監訳『滅びゆく世界の言語小百科』終風社。</p> <p>2016 (印刷中) 「タワウ—移民社会におけるゆるやかな統合」、『アジア文化研究所研究年報』第50号。</p>
口頭発表	<p>2015 「タワウ—移民社会におけるゆるやかな統合」、『東南アジア島嶼部における国境社会のダイナミクス——台湾海域との比較を視野において』、台湾中央研究院台湾史研究所・東洋大学アジア文化研究所共催、2015年9月、台北、台湾。</p> <p>2015 “Practicing Sociology of Education through Fieldwork: how did I approach Indonesian domestic workers in Hong Kong and what did I learn from them?”, The First International Conference of Sociology Education, October, Indonesia University of Education, Bandung, Indonesia.</p> <p>2015 “New Development or Transformation of the Bugis Association in Sabah, Malaysia”, the First Consortium for Southeast Asian Studies in Asia, Kyoto, Japan.</p>

小田 亮 (教授)

単 編 著	
論 文	2016 「伊藤眞先生の人と業績」、『人文学報』第512-2号：1-16。

何 彬 (教授)

単 編 著	<p>2016 『2015年度 基礎ゼミレポート集 和食を文化の角度から考える』。</p> <p>2016 『2015年度 民俗学演習報告書 和食の比較研究』。</p>
論 文	<p>2016 「日本民俗地図の歴史と発展」、『上海社科院课题研究论文集』</p> <p>2016 「学術研究の技術的探索——文化伝承図与データの表記について」</p>
口頭発表	<p>2015 「葬俗：比較及研究的視野（喪葬の民俗：比較と研究の視野葬俗）」中国殯葬協会（公墓）会員年会（9月四川省成都市）。</p> <p>2015 「文化表象的記録与標示——民俗地図の拡張応用」（文化表象の記録と標示—民俗地図の活用—）中国社会科学院民族学人類学研究所（10月17日）。</p> <p>2015 「従民俗地図解説節日」（民俗地図から祝日を解説する）上海華東師範大学民俗学研究所（7月22日）</p>

綾部 真雄 (教授)

単編著	
論文	<p>2015 (in printing) Catastrophe and Formation of Deep Ethnicity: Global Actors in Interstitial Passage among the Lisu in Thailand, in <i>Globalization, Modernity and Urban Change</i>, USSH-Western Sydney University eds., Sydney: Western Sydney University.</p> <p>2015 Mapping the Lisuness: Kinship as the Ever-Changing Dynamics among the Lisu in Thailand, 「第一回国際傈僳学学術研究学会及び傈僳族服飾文化展」提出原稿</p> <p>2016 (印刷中) 「NGOの社会的布置——タイ先住民NGOの場合」『グローバル支援の人類学』、信田敏宏ほか編、昭和堂。</p>
口頭発表	<p>2015 Wandering Commonalities: On Secularization of Lisuness in Thailand, IUAES Inter-Congress 2015 at Thammasat University, Bangkok, Thailand, July 16, 2015.</p> <p>2015 「書評 難民の人類学——タイ・ビルマ国境のカレン二難民の移動と定住」第17回日本タイ学会研究大会、於：学芸大学、7月12日。</p> <p>2015 「総論 多元的タイ観の構築に向けて」(分科会：タイのかたち——多元的タイ観の構築に向けて 代表者：綾部真雄) 第17回日本タイ学会研究大会、於：学芸大学、7月12日。</p> <p>2015 Mapping the Lisuness: Kinship as the Ever-Changing Dynamics among the Lisu in Thailand (描述“傈僳性”：泰国傈僳族的亲属关系—作为一个不断变化的动态)、第一回国際傈僳学学術研究学会及び傈僳族服飾文化展(於雲南省維西傈僳族自治区)、10月17日。</p>
その他	<p>2015 「Thai Studies by TMU Scholars」、タイ王国シリントーン王女名誉博士号授与記念式典におけるプレゼンテーション、於：首都大学東京、4月24日</p>

田沼 幸子 (准教授)

論文	<p>2015 「＜人類学的＞映像の生成——『Cuba Sentimental』の事例を通じて」『文化人類学』80巻1号、pp.20-37。</p>
口頭発表	<p>2015 「反＝反希望としての人類学——混沌を「一本」にまとめる力」第843回首都大学東京社会人類学研究会、於：首都大学東京、5月15日。</p> <p>2015 「マンチェスターの理想、バルセロナの現実——学んだことと実際」国立民族学博物館共同研究「映像民族誌のナラティブの革新」(代表：川瀬慈)、於：国立民族学博物館、11月21日。</p>
その他	<p>2015 エッセイ「ゼミのときだけ、息が吸える気がするんです」『人類学を語る』首都大学東京社会人類学研究室ホームページ (http://www.anthropology-tmu.jp/research/anthropology.html)</p> <p>2015 映像作品“Chorlton Open Gardens” (9:55min) co-directed with Giulia Forgione, Manchester University Granada Centre for Visual Anthropology, Short Course Ethnographic Documentary (6/22-7/3) の修了作品。</p>

石田 慎一郎 (准教授)

単編著	<p>2015 <i>The Indigenous knowledge of the Ameru of Kenya</i>. University of Nairobi Press, p. 270, in press (Njuguna Gichere, Stephen Mugambi Mwithimbu and Shin-ichi Ishida eds.)</p> <p>2015 『法文化論の展開——法主体のダイナミクス (千葉正士先生追悼)』 信山社。※角田猛之・ヴェルナー・メンスキー・森正美と共編</p>
論文	<p>2015 「序論」『法文化論の展開——法主体のダイナミクス (千葉正士先生追悼)』、角田猛之・ヴェルナー・メンスキー・森正美・石田慎一郎編、信山社、pp. 3-18。 ※角田猛之と共著</p> <p>2015 「千葉理論から Chiba Theories へ——多元的法体制論を語りなおす」『法文化論の展開——法主体のダイナミクス (千葉正士先生追悼)』、角田猛之・ヴェルナー・メンスキー・森正美・石田慎一郎編、信山社、pp. 97-115。</p> <p>2016 「グシイの離婚訴訟——1997年ならびに1998年の事例を中心に」『人文学報』第512-2号: 35-56。</p> <p>2016 「ケニア中央高地イゲンベ地方の紛争処理における平等主義と非人格性」『紛争をおさめる文化——不完全性とプリコラージュの実践』松田素二・平野美佐編、京都大学学術出版会。</p> <p>2016 「千葉法学における法主体・固有法・法文化の概念」『アジア法研究』第9号。</p>
口頭発表	<p>2015 「千葉法学の本流と支流——追悼出版プロジェクトにあわせての再論」アジア法学会、於：国際基督教大学、6月21日。</p> <p>2015 “Khat Production in the Igembe District of Kenya: How the UK Ban on Khat Affects a Local Industry”, The 114th American Anthropological Association Annual Meeting, Colorado Convention Center, 19 November.</p>
その他	<p>(翻訳)</p> <p>2015 ヴェルナー・メンスキー著「はしがき」『法文化論の展開——法主体のダイナミクス (千葉正士先生追悼)』、角田猛之・ヴェルナー・メンスキー・森正美・石田慎一郎編、信山社、pp. xi-xvi。</p> <p>(翻訳)</p> <p>2015 クレヴァー・マパウレ著「アフリカの千葉正士——アフリカ法の文脈における千葉法学の重要性」『法文化論の展開——法主体のダイナミクス (千葉正士先生追悼)』、角田猛之・ヴェルナー・メンスキー・森正美・石田慎一郎編、信山社、pp. 235-265。</p> <p>(文献紹介)</p> <p>2015 千葉正士『現代・法人類学』『法文化論の展開——法主体のダイナミクス (千葉正士先生追悼)』、角田猛之・ヴェルナー・メンスキー・森正美・石田慎一郎編、信山社、pp. 305-306。</p> <p>(文献紹介)</p> <p>2015 Masaji Chiba, <i>Asian Indigenous Law: In Interaction with Received Law</i>, 『法文化論の展開——法主体のダイナミクス (千葉正士先生追悼)』、角田猛之・ヴェルナー・メンスキー・森正美・石田慎一郎編、信山社、pp. 319-320-265。</p> <p>(文献紹介)</p> <p>2015 千葉正士「法文化への夢」『法文化論の展開——法主体のダイナミクス (千葉正士先生追悼)』、角田猛之・ヴェルナー・メンスキー・森正美・石田慎一郎編、信山社、pp. 339-340。</p>

澤井 充生 (助教)

単編著	<p>2015 『「周縁」を生きる少数民族——現代中国の国民統合をめぐるポリティクス』勉誠出版。 ※奈良雅史と共編</p> <p>2016 『日本の回教工作とムスリム・コミュニティの歴史人類学的研究』澤井充生編著、首都大学東京。 ※平成27年度科学研究費補助金・基盤研究C・研究課題「日本の回教工作とムスリム・コミュニティに関する歴史人類学的研究」(課題番号25370945、研究代表者：澤井充生、首都大学東京) 成果報告書</p>
論文	<p>2015 「「右派分子」からシャヒード(殉教者)へ——反右派闘争・文化大革命に翻弄された宗教指導者」『「周縁」を生きる少数民族の——現代中国の国民統合をめぐるポリティクス』、澤井充生・奈良雅史編、勉誠出版、pp. 217-246。</p> <p>2015 「第51章 帰化城と「回民区」——内モンゴル・フフホトのムスリム集住地区」『内モンゴルを知るための60章』、ボルジギン・ブレンサイン・赤坂恒明編、明石書店、pp. 333-337。</p> <p>2016 「西北回教聯合会の活動と回民社会の権力構造——『回教月刊(西北鐘声)を手掛かりとして』」『人文学報』第512-2号：59-99。</p> <p>2016 (in printing) “Is Turkish Muslim ‘Uthman a ‘Da’i’ or ‘Intelligence Agent’? : ‘Collaboration’ between Japanese Army and Muslim Minorities in China.” <i>GEÇMİŞTEN GÜNÜMÜZE RUSYA MÜSLÜMANLARI VE MATBUAT HAREKETLERİ</i>, Merthan Dunder (ed.), Türk Tarih Kurumu.</p> <p>2016 (in printing) “Chinese-style of Democracy in Mosque? : Mosque Administration and ‘Islamic Revival’ in the PRC.” <i>Reconnecting China with the Muslim World</i>, Ma Haiyun (Ed.), 出版社未定。</p> <p>2016 (in printing) “Forgotten Sufi Saint: Local Politics and Leadership of ‘Gongbei’ in Ningxia.” <i>Family, Ethnicity and State: Historical and Global Perspectives in Chinese Studies</i>, Han Min and Hironao Kawai (Eds.), Bridge 21 Publications.</p>
口頭発表	<p>2015 “Chinese-style of Democracy in Mosque? : Mosque Administration and ‘Islamic Revival’ in the PRC.” Sino-Muslim Forum Annual Conference, University of Malaya, August 11.</p> <p>2015 「日本軍占領時期的回民社会——以蒙疆政権下厚和市の個案為主」(日本軍占領期の回民社会——蒙疆政権下の厚和市の事例から)(公開講座：於：中華人民共和国内モンゴル自治区包頭市内蒙古科学技術大学、8月18日) ※中国語による研究発表</p> <p>2016 「“愛国愛教”を叫ぶムスリムたち——現代中国の宗教政策と清真寺の自律性」(中国ムスリム研究会・イスラーム地域研究若手研究者の会合同シンポジウム「ロシア・中国におけるムスリム・マイノリティと国家——20世紀政治変動期における多文化共生の実践とその課題」；於：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1月9日)</p>
その他	<p>(書評)</p> <p>2016 「書評 リンチン『現代中国の民族政策と民族問題——辺境としての内モンゴル』」『図書新聞』第3243号。</p>

2015年度社会人類学分野学事日程
(2015年4月～2016年3月)

4月	
4月3日(金)	新2年生ガイダンス 卒業論文ガイダンス 大学院新入生ガイダンス 研究生ガイダンス
4月5日(日)	入学式
5月	
5月30日(土)	日本文化人類学会第49回研究大会 OB・OG全体集会
5月31日(日)	日本文化人類学会第49回研究大会
6月	
7月	
7月28日(火)	卒業論文中間発表会
9月	
9月28日(月)	大学院入試(博士前期課程)
9月29日(火)	大学院入試(博士前期課程)
10月	
10月9日(金)	1年生対象分野別ガイダンス
11月	
11月12日(木)	1年生対象分野別ガイダンス
12月	
12月13日(日)	東京都立大学・首都大学東京60周年記念行事
1月	
1月28日(木)	卒業論文発表会
2月	
2月17日(水)	大学院入試(博士前期課程・博士後期課程)
2月18日(木)	大学院入試(博士前期課程・博士後期課程)
3月	
3月17日(木)	伊藤眞先生退官記念行事
3月24日(木)	卒業式・修了式

平成 28 年 3 月 11 日 印刷

平成 28 年 3 月 15 日 発行

「人 文 学 報」 第 512-2 号

非 売 品

東京都八王子市南大沢 1 丁目 1 番地

編集・発行者 首都大学東京 人文科学研究科
人文学報編集委員会

代 表 者 岡 部 卓

株式会社 インフォテック

東京都多摩市落合 2-6-1

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。
再生紙を使用しています。



古紙配合率 70%
白色度 70%再生紙を使用しています。

THE JOURNAL OF
SOCIAL SCIENCES AND HUMANITIES
(*JIMBUN GAKUHO*)

EDITED BY

The Graduate School of Humanities
Tokyo Metropolitan University

1-1 Minamiosawa, Hachioji-shi, Tokyo

No. 512-2

March, 2016

CONTENTS

Social Anthropology 9

Professor Makoto Ito and His Works:

A Tribute on His Retirement Makoto ODA (1)

Okinawa, the South Seas and Minahasa:

from a Story of an Abandoned Japanese Graveyard in Prewar Bitung,

North Sulawesi Makoto ITO (17)

Petitioning for Divorce among the Gusii of Western Kenya:

A Historical Account Shin-ichiro ISHIDA (37)

Northwest China Federation of Islam and the Power Strucure

of Hui Muslim Communities:

Based on the Bulletin "*Huijiao Yuekan*" Mitsuo SAWAI (59)

The "Blood Lake" Complex:

A Research Proposal

Der-Ruey YANG

..... Yoshitaka KAWASE (translate) (101)

When the Faith Has Become a Question in the Foreign Country:

A Note on the Notion of "Reflexive Modernization"

and "Objectification of Islam" Ryo ARAKI (123)